

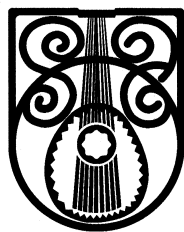
オーケストラ シンフォニカ 東京

第 65 回

# 定期演奏会

2025年4月13日（日）午後2:00開演

第一生命ホール



## OSTについて

OSTの活動は大きく3つの時代に分けられます。

第1の時代は1915(大正4)年に武井守成\*1がシンフォニア・マンドリニ・オルケストラ(1923(大正12)年オルケストラ・シンフォニカ・タケキと改称)として楽団を創設したことに始まり、多くのマンドリン曲を紹介し、合奏コンクールや作曲コンクールを実施するなど斯界をリードしました。1949(昭和24)年武井氏逝去により活動は次第に終息していき、1958(昭和33)年に解散となりました。この間57回の演奏会が開催されました。

第2の時代は武井氏ご遺族より貴重な武井文庫の蔵譜と楽器を譲り受けた杉田村雄\*2が理事長として1959(昭和34)年にオルケストラ・シンフォニカ・タケイを復興し、始めました。杉田氏が支配人を務めていた日比谷皇居前の第一生命ホールを会場に毎年の演奏会を重ね、またその場ではギターの優秀な作品に贈られる武井賞の受賞作品も演奏されました。1986(昭61)年の杉田氏逝去に伴い、翌1987年開催の追悼の意を込めた演奏会(定期28回目)で幕を閉じます。

第3の時代は残された団員の合議により幹事制の下で民主的に運営することが決められ始めます。その際に杉田氏ご遺族よりマンドローネ・リュート・セロなどの楽器と杉田氏が収集した楽譜を団として譲り受けました。武井文庫は、当時日本マンドリン連盟理事長でOST団員でもあった市毛氏のご尽力で国立音楽大学図書館に寄贈されました。また、武井氏ご遺族より楽団名「OSタケイ」の改称のご要望があり、それに従い「OS東京」と改称して、1988(昭和63)年の定期演奏会(第29回)を開催しました。これが現在へとつながります。

本日は杉田氏が復興した演奏会より65回目となります。毎回定演後の最初の活動日に総会が開かれ、すべての事項を決定します。任期2年の幹事団が代表幹事を中心に通常の運営を担当します。指揮者は現在会員の互選によって選ばれています。練習日は杉田氏の時代より毎月第2日曜で固定していて、新加入に関しては団員の了解の下で随時受け入れています。

### \*1) 武井守成(たけい もりしげ: 1890年10月11日~ 1949年12月14日)

枢密顧問官武井守正の二男として鳥取に生まれる。宮内省楽部長・式部官長、男爵。

マンドリン合奏団『オルケストラ・シンフォニカ・タケキ』(OST)を主宰し、マンドリン合奏曲・ギター独奏曲の作曲家として活動。また雑誌『マンドリンギター研究』を発刊し、1923年にマンドリン合奏コンクール、1924年に作曲コンクール、1927年にはマンドリンオーケストラ作曲コンクールを開催してマンドリン・ギター音楽の発展に尽力した。

### \*2) 杉田村雄(すぎた むらお: 1903年2月14日~ 1986年7月17日)

八王子・南多摩郡多摩村の村医杉田武雄の長男として生まれる。

暁星中学時代、クラスメートの斉藤秀雄とともに比留間賢八に師事、2人で暁星マンドリン倶楽部から静美社音楽部へと音楽活動を進める。

1939年OSTに入団。戦時中、武井守成氏の多摩村東寺方への疎開に尽力し、音楽関係楽譜・資料も戦火を免れる。

武井氏逝去後、OSTの再興にあたり理事長および指揮者を務める。武井氏の楽譜出版に尽力。日伊音楽協会理事長、日本マンドリン連盟副会長を歴任し斯界に貢献された。

# ◆ プログラム ◆

## 第一部 指揮：嶋 直樹

1. エニグマ変奏曲より「第9変奏 ニムロッド」 E. エルガー (嶋 直樹編)
2. 踊る小花 作品 14 武井 守成
3. 間奏曲 作品 77 武井 守成
4. 幻想曲 ヘンデリアーナ 菅原 明朗
5. 行進曲「威風堂々」第1番 E. エルガー (嶋 直樹編)

## 第二部 指揮：石井 啓之

1. 武井守成ギター小品集 (ギター独奏 演奏：小林 透) 武井 守成
2. 糸を繰る女 作品 95 武井 守成
3. 線香花火 中野 二郎
4. 夢みつつ (Sognando) 作品 206 C. ムニエル
5. 管弦楽曲2番より ポロネーズ (フルート：西村いづみ) J. S. バッハ
6. 交響譚詩第一譚詩曲 伊福部 昭 (石村隆行編)

《 休 憩 20分 》

## 第三部 指揮：山本 雅三

1. 東洋の印象 R. カラーチェ
2. 絲綢之路 (しちゅうのみち) 喜多郎 (山本雅三編)
3. 異邦人 -シルクロードのテーマ 久保田早紀 (山本雅三編)
4. ペルシャの市場にて A. ケテルビー (原田 <sup>はじめ</sup> 甫編)

---

## 曲 目 解 説

---

### 第 一 部

#### エニグマ（謎）変奏曲より「第9変奏 ニムロッド」

##### 行進曲「威風堂々」第1番

E. エルガー（嶋 直樹編）

イギリスの作曲家エドワード・エルガー（1857年～1934年）の作品を2曲演奏します。

エニグマ（謎）変奏曲はテーマとその14の変奏曲からなる管弦楽曲で、今回演奏する「ニムロッド」は第9変奏となります。変奏曲のそれぞれはエルガーの妻や友人たちを思いながら書かれたと言われており、この曲は友人のイエーガーを思い浮かべたとのこと。ニムロッドとは旧約聖書に登場する狩人の名前で、イエーガーの名前がドイツ語で「狩人」を意味することからそう呼ばれています。旋律はベートーヴェンのピアノソナタ「悲愴」第2楽章のメロディーが下敷きとなっているとのことです。

行進曲集「威風堂々」は全6曲（第6番は未完）からなりますが、今回演奏する第1番が最もよく知られています。中間部の旋律は「希望と栄光の国、イギリスの第2の国歌」とも呼ばれています。OSTでは17年前に演奏していますが、今回は新たに編曲して再演奏します。

#### 踊る小花 作品14

##### 間奏曲 作品77

武井 守成

「机の上の小さな花瓶にさされた可憐な小花を前にして、それが踊り出し踊り疲れて倒れ、更に踊り出す幻想をそのまま書いたものである。」と1925年（大正14年）3月の作者の日記に記されています。初めは「机上の小花に寄す」と名付けられましたが1928年（昭和3年）に全曲の構成を変えると同時に曲名も改められました。

間奏曲はマンドリン3パートとマンドラテノールという編成で書かれており、その特異な編成のためほとんど演奏されておられません。作者の言葉として、「本局は各部最小限度二人宛を必要とし、単なる五部合奏として、各部一人宛にて演奏することは許容しがたい」とのことですのである程度の大人数を意識したものと考えられます。

#### 幻想曲 ヘンデリアーナ

菅原 明朝

菅原明朝（1897年～1988年）は兵庫県生まれ。20歳でOSTに入団し、マンドロンチェロ・リュートモデルノ等の奏者として、また1925年（大正14年）から1932年（昭和7年）までは武井守成とともに指揮を振っていました。マンドリン界のみならず一般音楽

の世界でも活躍し、フランス・イタリア音楽を日本に紹介しました。四百数十曲もの作品を残しました。今回演奏する「幻想曲 ヘンデリアーナ」は1964年（昭和39年）に作曲され、翌年、作曲者本人の指揮によりOSタケイ第66回（現在の数え方では第7回ということになります）の定期演奏会で初演されました。ヘンデルのオペラからテーマを採り、幻想曲風に綴ったものであると伝えられています。

（文責 嶋）

## 第二部

### 武井守成ギター小品集

武井 守成

曲名と作者の言葉を記します。

- ・柴垣：古風な柴垣の内から洩れる琴の音。私はこの曲に幼時の環境を思い出す。（1944）
- ・萬花鏡（ばんかきょう）：円筒の底に二重に張ったスリガラスの中に色ガラスの破片が入っていて、円筒を回しながら覗くと内部周辺の鏡に映じて美しい文様が見える。（1946）
- ・破れたガラス戸 作品103：割れたガラス戸からは寒風が容赦もなく吹き込んで気持ちの悪い音を立てる。（1946）
- ・銀鱗 作品91：この曲を完成した日の夜に空襲により我が家全焼す。幸いにして草稿懐中にあり、これを清書できた。（1945）

小林 透 東京都大田区在住。越田滋、E. ボッティリエーリ、坂場圭介、長岡克己の各氏に師事。スペイン大使館、及び、公益社団法人日本ギター連盟よりディプロマを授与される。日本・スペインギター協会 常任理事。

### 糸を繰る女 作品 95

武井 守成

武井守成（1890年～1949年）が、1946年（昭和21年）にギター独奏曲として発表しました。1947年（昭和22年）に作者によりマンドリン合奏曲に編曲されました。作者は、「極めて古風な糸車を回している一人の女を描く」と述べています。

### 線香花火

中野 二郎

中野二郎（1902年～2000年）は、日本のマンドリン奏者・指揮者・作曲家・編曲家で、数多くのイタリアの管弦楽曲や吹奏楽曲を日本に紹介し、マンドリンオーケストラのために編曲しています（Wikipediaより）。作者は、「子供の頃、母の実家で、母屋と土蔵の間を抜ける涼しい風の通り道に縁台を据えてよく線香花火を炊いた。ああ、あのむせるようなにおい（中野二郎『日本の郷愁2巻』より）」と述べています。

## 夢みつつ (Sognando) 作品 206

C. ムニエル

カルロ・ムニエル (1859年～1911年) は、イタリアのマンダリン奏者、作曲家です。本曲は、1902年に出版されました。1919年 (大正8年) シンフォニア・マンダリン・オーケストラ (オルケストラシンフォニカタケイ) の第7回演奏会で初演されています (1970年1月20日発行『イタリアマンダリン百曲選第三集』より)。今回はOSTとして106年ぶりの再演となります。

## 管弦楽組曲 2 番よりポロネーズ

J. S. バッハ

「管弦楽組曲」は「ブランデンブルク協奏曲」と並ぶヨハン・セバスティアン・バッハ (1685年～1750年) の代表的管弦楽作品の一つで、独立した4組曲からなります。特に2番はフルート協奏曲ともいえるでしょう。本日は、久々に賛助をお願いした西村いづみ氏の華麗なソロをお楽しみください。

**西村いづみ** 東京音楽大学卒業。東京芸術大学大学院修士課程修了。フリーの奏者としてオーケストラ・室内楽・スタジオ等で演奏活動を展開。作・編曲、楽譜出版、CD制作などの創作活動でも好評を博す。

## 交響譚詩第一譚詩曲

伊福部 昭 (石村隆行編)

伊福部昭 (1914年～2006年) は、日本の民族主義的な力強さが特徴の数多くの管弦楽作品や、『ゴジラ』をはじめとする映画音楽のほか、音楽教育者としても知られています (Wikipedia より)。

この曲は、夭逝した次兄のために書かれた二つの鎮魂の曲「交響譚詩」の内の第一譚詩曲です。昭和18年 (1943年) に作曲され、翌年文部大臣賞を受賞しています。譚詩とはフランス語のバラードのことです (OST第38回演奏会のプログラムより)。

(文責 石井)

## 第三部

### 東洋の印象

R. カラーチェ

ラファエレ・カラーチェは、イタリアのマンダリンの製作者、作曲家、演奏家と三刀流の活躍をした斯界の巨匠。1863年12月ナポリ生まれ、1934年11月没。カラーチェ工房としては3代目にあたります。1924年 (大正13年) 12月に来日して2か月余りの滞在期間に東京・京都・名古屋など各地で演奏会を開き、また当時の皇太子 (昭和天皇) を前に御前演奏、我が楽団のルーツである旧OSTの指揮などの演奏活動で、日本のマンダリン界の発展にも大きく寄与しました。

『「東洋の印象」はカラーチェが日本訪問の途次、ロザムンダ号でスエズ運河通過の折に作られたもの』という記述が1926年（大正15年）武井守成発刊の「マンドリンとギター誌」に載っています。イタリアに帰国し最初の演奏会で演奏されたとのことです。

題名の東洋とはオリエント（太陽の昇る方向という意味）でローマ人の国より東の土地のことで、主に中近東地域を指しています。

### 絲綢之路（しちゅうのみち）

喜多郎（山本雅三編）

題名は中国の都市と、シリア、ローマなどの西方の諸地域とを結んだ、中央アジア経由の陸上東西交通路シルクロードの中国名。1980年代に放送されたシリーズドキュメンタリー『NHK特集 シルクロード』のテーマ曲。

### 異邦人 -シルクロードのテーマ

久保田早紀（山本雅三編）

1979年（昭和54年）にカラーテレビのCMに使われ、中東の砂漠の映像に乗って大ヒットを記録しました。エキゾチックな曲想で今も愛されている名曲ですが、意外にも元々は当時国鉄の中央線の国立駅前の大学通りの美しい並木道をイメージして書かれました。歌い出しの「子供たちが空に向かい 両手をひろげ ……」は電車から見た国立駅近くの空き地で遊ぶ子供たちの姿とのこと。

### ペルシャの市場にて

A. ケテルビー（原田 甫編）

クラシックの入門曲としておなじみの本曲は、1920年にイギリスで作曲されました。砂漠からラクダと共にやってくる隊商～人々でにぎわう市場の喧騒～美しい王女様の来訪～奇術師やへび使いの大道芸人たち～堂々と太守の登場～再び喧騒の市場に～王女の退出～隊商の旅立ち～日が暮れて訪れる静寂。市場の情景が鮮やかに描写されています。今回は竹内郁子編集『マンドリン・アンサンブル・クラシック名曲選2』（水星社）収録の編曲を元に演奏いたします。

（文責 山本）

### 《第66回定期演奏会のお知らせ》

2026年4月12日（日）14:00開演 第一生命ホール（晴海・トリトンスクエア）

## 出 演 者

指 揮 者：山本 雅三      嶋 直樹      石井 啓之  
 コンサートマスター：田中 尊子      小松崎美奈子

第一マンドリン：田中 尊子      内野 典子      高嶋 明美      高橋真理子      本間 輝樹  
                          ☆小松崎美奈子      大口 千秋      高嶋 淳      田島 明子

第二マンドリン：☆宮崎 俊行      池田 由美      肥沼 邦治      小林 悦子      水落 恵子  
                          高嶋 友美      宇野 敏夫      後藤 俊明      鈴木 園子

マンドラテノール：金勝 溪子      太田真佐子      後藤 成子      滝田ふさ子  
                          高嶋 典子      小谷 文子      高橋 新次      ★鈴木 憲靖

ギ タ ー：小林 透      岩城 納      山崎 豊  
                          原島 美歩      戸次 脩      ☆山本 雅三

リュートモデルノ：☆嶋 直樹      小穴 雄一      ☆石井 啓之（代表）

マンドロンチェロ：澤田 理恵      安達 直之      小川真寿美

マンドローネ：山口 敦      船崎 薫

コントラバス：林 義人      ★樺澤とも子      ★清水 威志

フル ー ト：★西村いづみ

クラリネット：★久松 響子

ピ ア ノ：★浦島 晶子

打 楽 器：★飯野 晶子      ★成末 香里      (★=賛助奏者 ☆=幹事)



ご意見、ご感想

・この演奏会に関するご意見、ご感想をお聞かせください。左のQRコードからお願いします。

・過去のOSTの演奏画像をごらんになれます（YouTube）。右のQRコードからどうぞ（音が鳴りますので、演奏中のアクセスはご遠慮くださいませ）。



過去の演奏画像

連絡先：石井 啓之  
 E-MAIL：hi@ishii164.net  
 ホームページ：http://ostkyo.info/